

## 平成 25 年度 第 2 回大阪府立吹田高等学校学校協議会 記録

○日 時：平成 25 年 12 月 17 日（火）午後 7 時～午後 8 時 30 分

○場 所：大阪府立吹田高等学校 本館 2 F 会議室

○主なテーマ

1. 平成 25 年度授業アンケート及び学校教育自己診断の実施結果
2. 今年度の主な取組み（学校経営推進費事業、育成支援チーム事業等）

○出席者（敬称略・委員は 50 音順）

会長 白井 孝雄（大阪薫英女学院中学校・高等学校 校長）

委員 井村 朗子（本校 後援会会長）

上口 浩幸（藤が丘上自治会会長）

川辺 浩一（本校 P T A 会長）

田中 英世（吹田市立第二中学校 校長）

土井 実（鳳志会 副会長）

校長 村田 徹

○事務局

大家 秀夫（教頭）、中埜 高彦（事務長）、手島 肇（首席）、池田 延孝（生徒指導主事）

大島 直子（進路指導主事）

■委員から出された主な意見等

【平成 25 年度授業アンケートに関して】

- 「授業アンケート」の結果は、教員評価にも一定反映するものだと聞いている。そんな中吹高では、生徒たちがアンケートの意義をしっかりと理解して、（決して適当に答えたのではなく）まさに真摯に取り組んだと伺い、とてもすばらしいと思った。また、アンケート自体も比較的短時間で実施できたようで安心した。
- アンケートの真の意義は、単に結果に一喜一憂するのではなく、それを踏まえた改善に向けた取組みにある。吹高では、全教員がアンケート結果を共有し、授業改善に前向きに取り組まれたそうで、この経験を踏まえ、授業力の向上に一層の努力をお願いしたい。
- アンケート結果の分析後、教科・科目ごとに質の向上に向けた話し合いを持つとともに、教務部が中心になって、各教科から出された授業改善に向けた創意工夫等を集約し、全教員にフィードバックする取組みは大変素晴らしい。そのような地道な努力の積み重ねが、必ずや生徒の学力向上、学校全体の底上げにつながるので、今後もしっかり頑張っていたきたい。

### 【学校教育自己診断に関して】

- 学校教育自己診断は、生徒・保護者から学校がどのように受け止められているのかチェックされる訳で、学校側にとってかなりプレッシャーがあったと思う。しかし、自己診断に対して、学校・教員が重要性を認識し、学校改革に活かそうと分析し、結果を公表している事は非常に良い事である。今後も、苦労はあるかと推察するが、様々な角度から分析し学校運営の一つの指標としていただきたい。
- 「あいさつ運動」などにより、朝の通学態度は以前に比べて確かに改善されていると思う。しかし、夕刻の下校（特に自転車）マナーは、まだまだ改善されているとはいえない。とりわけ、クラブ活動を終えて下校する生徒の中には、狭い一般道路をかなりのスピードで自転車で走ったり、飲食店の前に集団で自転車を止めるため、周辺住民の皆さんに迷惑がかかっていることもあるようだ。この辺りの行動についても、さらに生徒たちの意識を高め、より良い学校をめざしてもらいたい。
- 「遅刻指導」などの取組みにより、授業態度等が向上し、落ち着いた雰囲気授業を受けることができるよう生徒を指導することは、学校として当然の責務であり、生徒にとっても規範意識は重要である。しかし、居残り指導・頭髪規定などについて 100%肯定的な意見になることはなく、むしろ、批判的な意見など様々な意見がある方が自然だ。
- 少し厳しい指導に対する批判的なご意見もあったそうだが、全体的には多くの保護者が肯定的に捉えておられる。さらに多くの保護者のご理解を得られるよう、今後も丁寧な説明を続けつつ、あとしばらくは、現在の指導を継続してもらえばよいと思う。
- 毎年、3分の1の生徒が入替わるので、生徒の状況・質により求められる指導が変わることもある。現在は、生徒指導の結果が着実に表れているが、弛むことなく、生徒指導以外の分野も含めて、超えなければならないハードルを常に見直し、意識することが大切である。より広い視野で、よりレベルアップした目標を設定し、それを乗り越えられるよう継続した指導をお願いしたい。

### 【今年度の取組みに関して】

- 3年後の「めざす学校像」をプレゼンテーションした結果、「学校経営推進費」予算を約500万円獲得したことを評価したい。また、本事業により整備された個別自習室等の利用率も高いようで、成果が期待できる。継続的な予算確保に努め、教育環境のさらなる整備を図っていただきたい。
- 個別自習室の利用時間が17時までのようだが、今後も生徒たちの自学自習の定着を図り、意欲的な生徒に対しては、利用時間の延長なども検討してはどうか。
- 個別自習室の一つひとつのブースが少し大きいかなと感じたが、落ち着いた環境の中で教員が生徒に対して指導できるとともに、生徒同士で教え合うことも可能で、予算を掛けた成果が十分に出ていると感じる。
- （昨年度からの）吹田進路プログラム（SSP）の作成・定着に向けた取組みが、確実な成果へとつながっていきそうな期待感がある。大学進学希望者の関関同立・産近甲龍合格への環境整備も円滑に進みつつあるようで、近い将来、生徒たちはもとより、保護者・教職員の頑張りがきっちりと実を結ぶだろう。教職員の皆さんにとっては大変な部分もあるだろうが、引き続き、一層の努力をお願いしたい。

- 「吹高学習スタンダード」の策定を題材として、府教育委員会の施策も効果的に活用し、若手教員の計画的な育成に取り組んでいるという報告があった。府教委⇒若手のリーダー⇒若手教員⇒全教員と浸透させていく過程において、若手教員が順調に成長しているようで、羨ましく、また、効果的な進め方だと思う。
- （学校経営推進費事業で示された）3年後の目標達成に向けた「道筋」を確固たるものとするため、若手教員の積極的な行動力・発信力等と、ベテラン教員の持つ知識・経験が効果的に組み合わせられ、学校全体が一丸となっているように感じる。今後も、この状況をさらに強化し、生徒の希望進路実現に向けた取組みを積極的に企画・実行してもらいたい。

#### 【まとめ】

- 吹田高校では、今年度も学校教育計画、学校経営計画の実現に向け努力され、着実により良い方向に学校が変化しつつある。この変化を保護者や地域も感じており、また注目もしている。
- 今後も、「進路プログラム」「進学クラス」「土曜講習」「ICTの効果的活用」などの取組みを地道に継続するとともに、「個別自習室」「マルチルーム」等の活用により、基礎学力・自学自習力の充実を図り、希望進路の実現を図っていただきたい。
- また、「吹高スタンダード」策定という新たな展開を弾みに、全ての生徒が目的・目標を定め、日々の授業に取り組む、生き活きとした学校生活を過ごせるようしっかりと指導していただきたい。